

【短報】ナラキマダラツツコメツキの奈良市の記録

ナラキマダラツツコメツキ *Subprotelater japonicus* Nakane et Hisamatsu, 1991 は、奈良市春日山から採集された1個体に基づいて記載された種である(中根, 1987, 1991)。非常に少ない種で、原記載以降、鳥取県高鉢山(山治, 1998)、岡山県真庭市蒜山下徳山(渡辺, 2008)、岩手県紫波郡矢巾町広宮沢(高橋, 2010)などで記録報告があるが、春日山での再報はない。

筆者の手元には奈良市で採集された標本があるので報告しておく。

1♀, 奈良県奈良市春日野町, 6. VI. 2009, 齋藤琢巳採集, 筆者保管。

齋藤氏によれば、本個体は地上に落下した成人の腕大の比較的新しいイチイガシの枝上に静止していたところを採集され、その後、数回同地周辺を探索したが本種を見つけることは出来なかったとのことである。本種の生態は殆ど解明されておらず、これまでの採集された状況は、「カワラタケのような茸の生えた朽ちた木から採集した甲虫に混じっていた」(中根, 1987)、「標高750~800mのブナとミズナラを主体とする天然林でのFIT」(渡辺, 2008)、「標高294mの低山帯域で、草木のビーティング」(高橋, 2010)などで共通性はみられない。形態は渡辺(2008)に分かりやすく解説されている。

末筆ながら、貴重な標本を恵与頂いた齋藤琢巳氏(尼崎市)に心からお礼申し上げる。



図1. ナラキマダラツツコメツキ, ♀.

引用文献

- 中根猛彦, 1987. 日本産コメツキダマシ類についての覚え書き. 月刊むし, (198): 7-11.
 中根猛彦, 1991. 日本の雑甲虫覚え書き 8. 北九州の昆虫, 38(2), 111-115.
 高橋泰美, 2010. 岩手県でナラキマダラツツコメツキが採れる. 月刊むし, (467): 41.
 渡辺昭彦, 2008. 岡山県でナラキマダラツツコメツキが採れる. 月刊むし, (445): 39-40.
 山治 治, 1998. ナラキマダラコメツキダマシの採集記録. ねじればね, (80): 8.

(有本久之 558-0052 大阪市住吉区帝塚山西3-4-21)

【短報】シラホシハナムグリ幼虫の生育環境の事例

シラホシハナムグリ *Protaetia brevitarsis brevitarsis* (Lewis, 1879) の幼虫は、これまでフクロウの巣箱内(那須, 2011)やイネ科草本を主としたリター層下の土壤中(飯嶋, 2017)で採集されている。また、コウノトリの人工巣から得られた繭の中の成虫死体がシラホシハナムグリと同定された事例がある(那須ら, 2010)。

筆者らは、採集した幼虫や繭を飼育して羽化成虫を種同定することにより、本種幼虫の生息環境を2件確認したので報告する。同定は酒井・藤岡(2007)をもとに、外部形態および一部の雄の交尾器を檢視して行った。

1. 河川中洲の樹洞

岡山市北区中原の旭川の中洲ヤナギ林において、開口部の地上高1.2mほど、開口部の直径10cmほどのヤナギの樹洞の中からハナムグリ類の幼虫6頭を2014年11月20日に採集した。これらを市販の昆虫マットで室内飼育したところ、2015年3月下旬に全個体が羽化し、本種と同定された。うち2♂を標本として保管した。

このあたりの中洲は地盤高が低く、流れの方向に細長く帯状に分断された諸島状の地形で、頻繁に地表が洗われるため草本植生は発達せず、腐植土の蓄積はほとんどない。また、このヤナギ林では毎年春から夏にカワウの繁殖コロニーが形成され、巣の中には古い巣材等が腐朽した腐植土があると思われるが、飯嶋(2017)によればシラホシハナムグリ幼虫がカワウの巣内で発育することは困難である。それが事実であれば、本種が産卵できる腐植土のある環境は、この中洲には樹洞しかないと推測された。なお、幼虫を採集した樹洞は大雨時の増水で開口部が水没するはずで、その時の幼虫の行動や耐性がどのようなものか興味深い。

2. 市街地のベランダに置いたプランター

2006年11月、兵庫県宝塚市山本南の戸建住宅(地上高約5m)において、市販の園芸用培養土を入れてミニトマト等の野菜を栽培していたプラスチック製プランター(幅70×奥行40×深さ25cm程度)の土中に80個体以上のハナムグリ類幼虫を発見した。そのまま放置した後、2007年5月に土を掘り起こしたところ50個以上の繭が出現した。これらの繭を培養土ごとプラスチックケースに入れて飼育したところ6月下旬に羽化し、数個体のシロテンハナムグリを除いて全てシラホシハナムグリであった。うち14♂15♀を標本として保管し